

## ネギ

12月末現在の実績は、作付面積30.5ha、市場出荷販売量352.5トン、販売額1億921万円で、計画より販売量が減ったものの平均単価が1キロ当たり415円となり、計画並みの販売額となりました。定植作業は男鹿地区で3月から、秋田地区では4月から始まり、収穫作業は7月上旬から開始しました。定植から活着期は天候に恵まれ順調に推移したものの、6月中旬から「べと病」や「アザミウマ」、下旬から「さび病」と、平年より1か月早く発生が確認されました。7月豪雨では条間や定植溝などに停滞水が溜まり、それが落ち着いた後の高温干ばつで根の傷みが発生し、生育が停滞した圃場も見受けられました。しかし、スタブルカルチなどによる排水対策の強化や酸素供給剤を合わせた中耕作業、液肥を混用した殺菌剤防除などを実施した圃場では壊滅的な被害を防ぐことができ、生産者のなかには前年を上回る収量をあげた方もいました。8、9月はこれまでに経験したことがない異常高温や少雨から生育停滞や肥大不足が発生し、M、Lサイズ中心の出荷となりました。7月大雨の影響による「萎凋病」や「腐敗症」の発症もみられ、10月からの秋冬ネギ規格（白根30cm）の出荷が中旬までできず、酷暑が秋冬ネギの出荷にも大きく影響しました。

品薄の状況下のなか、計画出荷数量の確保に努めながら程度のよいB品の出荷も開始するなど、県外出荷量を増やしたことで生産者の所得向上にも繋がりました。また、「NAMA HAGE AGR I YELL PROJECT」の一環で、今年度から袋ネギの試験販売を行いました。6月は葉ネギ「秋田わかまるねぎ」の市内販売を、7月下旬からお盆期間中にはオリジナルデザインの袋ネギを販売し、11月は京浜方面への県外販売を行い高い評価を得られ、次年度は規模を拡大した販売を計画しています。また、新規作付け者が増えることから、生産者へのサポートを強化してまいります。



9月11日(月) 秋冬ネギ現地研修会▲

## ダリア

今年度の作付面積は3.9haで、販売実績は出荷本数10万本、販売額2,000万円と、自然災害の影響により出荷量が大幅に減少しました。

7月の豪雨による水害やその後の連日の猛暑によって、株の枯死や生育停滞などの被害が発生し、出荷量に大きく影響を及ぼしました。全国的にも天候不順の影響から出荷量が減少しており、年間を通して単価高に恵まれました。

球根の確保が危ぶまれるなか、球根などへの助成、高温対策など、次年度も継続して栽培できるよう様々な提案や取り組みを図りながら、安心して栽培できる体制づくりに努めてまいります。



10月25日(水) 雄和園芸集出荷施設▲

## 菊

7月の豪雨で冠水した圃場が多数確認され、これにより、お盆向けの輪菊や小菊で根痛みや葉枯れ症状が続出し、等級や収穫量が大きく低下しました。さらに、8～9月の猛暑の影響から開花遅延やムレによる立枯れ症状が多発し、彼岸向けでもお盆向けと同様に等級と収穫量が低下しました。



販売では、全国で気象が乱れた影響で上半期には花き類の市場流通量が少なく、需要期においては平年より高単価で推移しました。しかし、下半期は開花遅延の影響や県外産地の作付け状況の変動から一時的に市場流通量が増加したため、単価の乱高下が激しく著しい年となりました。年間を通しての販売実績は、出荷本数340万本（前年度比98%）、販売額1億7,552万円（同96%）となりました。

◀7月12日(水) お盆向け菊集荷説明会